

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成23年 5月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

○天候不順時はラップサイレージ調製で適期に収穫しましょう。

これから一番草の収穫時期に入ります。

天候不順により収穫作業が遅れると栄養成分の低下や倒伏が始まり収量及び品質が低下します。天気予報に留意し、乾草調製が難しい時は、ラップサイレージ調製で対応し、なるべく作業が遅れないようにしましょう。

## ■牧草の放射性物質モニタリング検査結果

牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が出されていた県北西部のうち、滝沢村東部エリアを除く地域の利用自粛等の要請が解除となり、牧草の利用が可能となっています。

## ■牧草

増収を期待した遅刈りは栄養価が低下し、刈取り後の生育に悪影響を及ぼします。  
適期刈り取りを行うとともに、調製方式に応じた水分含量となるように努めましょう。

## ■飼料用トウモロコシ

雑草の繁茂を防ぐために、生育期処理は適切に除草剤を選択し、適期に行いましょう。

## ■暑熱対策

暑熱の影響を緩和する対策を今から準備しておきましょう。

### 1 牧草の放射性物質モニタリング検査結果

原発事故後に収穫する牧草の利用自粛や放牧の見合わせが行われていた県北西部地域の滝沢村を除く11市町村において、5月18日（水）から牧草の放射性物質の確認調査を実施したところ、滝沢村を除く全ての市町村サンプルで、乳用牛及び肥育牛に対する粗飼料の暫定許容量を下回りました。

その結果、5月20日（金）に滝沢村を除く11市町村に対する牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が解除されました。

また、滝沢村においては、村内を東部、中部、西部の3つのエリアに区分し5月23日（月）に再調査を行ったところ、滝沢村中部、西部エリアで暫定許容値を下回りました。

その結果、滝沢村東部エリア（5月11日の調査で暫定許容値を上回った）を除く全ての地域に対して、牧草の利用自粛及び放牧見合わせの要請が解除されました。

○滝沢村東部エリアへの対応

再生草を隔週3回連続で暫定許容値を下回ること、利用自粛等要請の解除とする。

次のURL（岩手県ホームページ）をご覧ください。<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=32466>

### 2 牧草

#### (1) 生育状況

今年は消雪が遅かったことから肥料散布作業が遅れました。生育は若干遅れていますが、オーチャー

ドグラスの出穂は平年並に始まっており、1番草の刈り取り作業を開始した圃場もみられます。

## (2) 1番草の収穫適期

図は、オーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。

1番草は生育が進むにつれ草丈が高くなり、収量と繊維含量が増加します。反対に、出穂始め以降、消化率、可消化養分総量(TDN)、蛋白質含量(CP)が急速に減少します。

1番草の収穫は収量を確保しつつ栄養価が高い時期、すなわち『出穂始めから出穂期』に行うことが適切です。

今年は4月中の生育が遅れたため、草丈がやや低い状態で出穂する圃場が多いと思いますが、収穫適期は同じです。刈り遅れないようにしましょう。

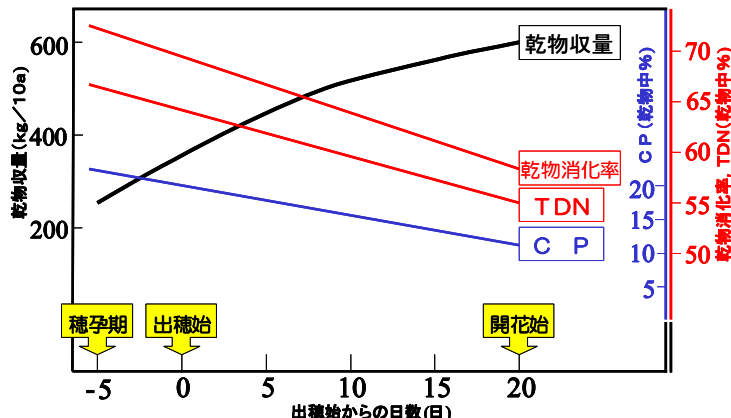


図 1番草収量・栄養価の時的推移(オーチャードグラス)

## (3) 刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、再生力の強弱を決定する重要な要因です。

牧草は極端な低刈りでは、生長点が切除されるほか、同化作用を担う緑葉が刈り取られるとともに、貯蔵器官の一部が取り去られ貯蔵養分総量が少なくなるため、再生が悪くなります。

一方、極端な高刈りの場合は収量が減少します。したがって、牧草の刈取り高さは、牧草の再生力と収量確保の両面を考慮して、地際から10cm程度が適当です。

## (4) サイレージの調製

ア 原料草を予乾して適切な水分含量にして調製するのが基本です。予乾せずにサイレージを作ると、排汁により養分が失われます。また、不良発酵(酪酸発酵)の原因にもなります。このため、予乾によりロールベールサイレージは水分を50~60%に、タワーサイロやバンカーサイロ等では水分を65~70%に調整しましょう。

イ 土砂の混入は不良発酵の原因となりますので、作業スピードを落とし圃場の凹凸に注意しながら収穫作業をしましょう。

ウ ロールベールサイレージに調製する場合、ロール成形後ラッピングまで時間が大幅に経過すると品質は大きく低下します。ロール成形後は直ちにラップし、必ず成形当日にラップ作業を行うようにしましょう(表1)。

表1 密封遅延時間とラップサイレージの品質

試験区	水分 (%)	pH	有機酸組成(%, FM)				VBN/TN	乾物密度 (kg/m <sup>3</sup> )
			乳酸	酢酸	プロピオン酸	酪酸		
梱包直後	55.8	4.8	1.26	0.10	0.09	-	5.2	148
1時間	56.5	5.0	1.08	0.09	0.10	-	5.2	112
2時間	63.8	4.5	1.64	0.11	0.06	-	6.0	128
12時間	59.6	5.0	1.82	0.12	0.06	-	7.5	134
24時間	63.2	6.1	0.91	0.10	0.08	0.12	13.7	126

1)原料草はイタリアン、エンバク(40%)混播

2)5月2日調製(フィルム2回巻、4層)、6月20日開封

3)VBN/TN:全窒素中の揮発性窒素化合物の割合(草地試1991)

## (5) 乾草の調製

中途半端な水分(30~40%)での梱包はカビの発生を増長し、品質低下を招きます。また、発熱しやすく、自然発火・くん炭化の原因となりますので、2~3日快晴が続くと予想される期間に刈り取りましょう。予乾が早く進み水分含量が20%以下になると、収穫した牧草の呼吸が止まるため、糖、タン

パク質、アミノ酸の損失が少なくなり、栄養価の高い乾草ができます。

#### (6) 刈取り後の追肥

2番草の生育を促すため、刈取り後直ちに追肥を行いましょ。施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。

### 3 飼料用トウモロコシ

#### (1) 雑草防除

雑草の繁茂を防ぐには、早期の発見と防除が不可欠です。土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理を行います。除草剤によって、効果がある雑草が異なります。圃場の雑草を確認のうえ除草剤を選びましょ。散布時期は2~6葉期ですが、除草剤毎に違うので使用する除草剤の使用方法を必ず確認下さい。

### 4 暑熱の影響の緩和（乳用牛）

昨年の猛暑の影響により、秋以降の受胎が多く、今年の7月から8月に分娩する個体が平年よりもやや多いことが想定されます。また、震災後しばらくの間は、給与飼料の制限が続き、免疫力が回復しきっていない場合も想像されます。

本格的な暑さは、7月以降ですが、暑熱の影響を緩和する対策を今から準備しておきましょ。

#### (1) 換気・送風

泌乳量の多い牛の呼吸数が増加し始めたら、本格的な対策が必要となります。今のうちに、換気扇やダクト送風の設置位置の変更や増設を実施しておきましょ。

#### (2) 輻射熱の遮断・遮光

牛舎屋根裏への断熱材の取り付けや牛舎屋根への石灰資材の塗布、寒冷紗等による西日等の遮光を行います。

#### (3) 水

水の十分な貯留方法（配管を太くするなど）とウォーターカップの増設、水槽の増設を検討します。水槽をこまめに清掃することも、飲水量確保のための大切な作業です。

#### (4) 乾乳牛

これから乾乳する牛は夏に分娩します。乾乳期の飼料摂取量は、分娩後の飼料摂取量に大きく影響し、分娩後の代謝障害を予防するために乾乳期にも十分採食させることが重要です。できれば腹囲が「リンゴ形」になるよう、飼養環境にも配慮し十分に飼料を給与して下さい。



写真：腹囲形状のモニタリング例

**春の農作業安全月間実施中！**

[ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。